

第1回 すさき野外博物館開催

しんじょう



2006. 7. 31
すさき・かわうそクラブ会報
—No. 4—
発行：すさき・かわうそクラブ事務局

須崎市では、かわうそのまちづくり事業の一環として、NPO法人四国自然史科学研究センターとともに「すさき野外博物館」を開催しています。

「すさき野外博物館」ってなに？

須崎市では、どのような生きものが見られるのか。環境はどのように変化しているのか。須崎市にお住まいの方でも、日常生活の中では意識することも少ないのではないのでしょうか。そこで、須崎市に現存する身近な生きものや自然環境をテーマに、講師の先生方とともに現地を訪問し、実際に生きものや自然にふれな

がら、現在の状況や、今後予想される環境の変化などについて講演いただき、環境問題を、より身近な問題として、みんなで考えていこうというものです。



第1回「干潟のいきもの」

7月23日(日)午前9時から、桜川河口にひろがる干潟で行われました。講師には、長年、この干潟を調査してこられた町田吉彦先生をお迎えし、この干潟にくらす生きものをテーマにご講演いただきました。

時おり小雨の降る中、15人の方にご参加いただきました。

この干潟は、高知県でも絶滅危惧種に指定されているシオマネキやトビハゼなど、貴重で珍しい生きものが数多く生息している県内でも数少ない貴重な環境であるとの事でした。生息している(できる)環境が少なくなってしまう原因としては、土地開発や公共事業などにより環境が変化した事などが挙げられ、現在、シオマネキが確認できる場所は、この干潟を含め、県内では3カ所しかないとの事でした。また、この干潟には、シオマネキ以外にも、アカテガニやクロベンケイガニなど、10種類以上のカニが生息しているとの事でした。



この干潟に生息する生き物たちのお話をしてくださる町田先生。

シオマネキは、雨が降ると穴に潜ったまま地上に姿を現さないため見る事ができないかもしれないとの事でしたが、現場に行くとき大きなハサミとともにその姿を見せてく

れました。参加者のほとんどが初めて見るその姿に大喜びでした。警戒心が強いのか、2メートル位まで近づくと、すぐに穴に潜ってしまいます。そのため、少し強引ではありますが、手にとって観察しました。



「シオマネキの穴」
近づくと、すぐに隠れてしまう。



左側のハサミが大きく育ったシオマネキ(穴から出てきてもらいました)。

ハサミが大きいのは「オス」のみだそう、他のオスとの縄張り争いや、メスへの求愛行動などに使われるそうです。ちなみに、大きくなるハサミは、左右決まりはないそうです。

他のオスとの争いなどにより、ハサミが取れた場合には、もう片方の小さいハサミが大きくなり、取れた方からは小さなハサミが生えてくるそうです。



講師のご紹介



町田 吉彦(まちだ よしひこ)先生

1947年3月30日生まれ 秋田県出身

高知大学理学部教授
NPO法人 四国自然史科学研究センター理事長
前 高知県二ホンカワウソ調査指導員・二ホンカワウソ緊急保護対策調査検討委員会委員

趣味：ソフトボールと野球をすること
ネイチャーフォト(野草・生きもの)

シオマネキは、有明海などの底の深い干潟か、草の生えている干潟に生息しているとの事でした。この日も、シオマネキが姿を現した場所は、草の生えているところだけでした。



「シオマネキのすむ環境」
草の生えた干潟に生息している。

残念ながら、天候の関係で、トビハゼは確認できませんでした。したが、フトヘナタリガイ(県の絶滅危惧Ⅱ類)など、貴重な生きものたちを多数確認することができました。

今回、参加してくださいました方からは、「長年、須崎に住んでいるのに、そんなに貴重な生きものがここに生息しているとは、全く知らなかった」という意見が多くありました。この干潟で見ることでできた貴重な生きものたちの中には、一見、どこにでもいそうな生き物もいましたが、町田先生から「これも絶滅が危惧されている貴重な生きもの

一つです」と説明されると、「そういわれてみれば・・・」と、何となく見たことのない貴重な生き物に見えてきました。



「フトヘナタリガイ」
一見、どこにでもいそうな貝ですが・・・。

また、参加してくれた方の中には、保育園児や小学生の参加もありました。「環境学習」と言えば難しかったかもしれないですが、お母さんに手を引かれながら、身近な自然や、そこにくらす生きものたちと楽しくふれあう姿を見てみると、自然を大切にすることを大人に成長してくれるのではないかと感じました。



子どもたちは大はしゃぎでカニや貝を捕まえていましたが、お母さんは大変そうでした。



みなさん、目を凝らして観察しています。

市内に残っている貴重な自然や、そこにくらす生きものたちについて、一人でも多くの方に知っていただき、現存する自然の保護・保全、あるいは失われた自然の再生などについて、みんなで考えようというのが本事業の目的です。したがって、むやみに立ち入って自然を荒らしたり、そこにくらす生きものを捕獲したりすることのないようお願いいたします。



見慣れない生きものに興味津々。大切にしようね。

今後の予定(18年度)

- すさき野外博物館は、下記の内容を予定しています。詳しい内容や日時などは、広報や、各公民館・学校などに配布するチラシでお知らせします。みなさん、ぜひご参加ください。
- 第2回 ツバメのねぐら観察(8月)
 - 第3回 わたり来る冬鳥たち(11月)
 - 第4回 冬に卵を産むカエルたち(2月)

「かわうそそのまちづくり」
〜かわうそと共生できる環境を〜

昭和54年を最後に、かわうそが私たちの前から姿を消して、25年以上が経ちました。

私たちの暮らす須崎市には、今なお豊かな自然が残されていますが、それでもかわうそにとってはすみづらい環境になってしまったようです。かわうそにとってすみづらい環境は、私たち人間にとっても良い環境とはいえないのではないのでしょうか。

須崎市では、かわうそと共生できるまちづくり、「かわうそそのまちづくり」に取り組んでいます。

その一環として、平成13年から平成16年までの4年間、実際にかわうそが生息している韓国求禮郡へ使節団を派遣し、かわうそをはじめとする多くの生きものが生息している環境にふれ、地元の方やスタッフの方々と交流を深めるとともに、多くのことを学習してきました。

今後、みなさんとともに環境に対する意識を高め、現存する生きものたちが、かわうそのように姿を見せなくなるような、「かわうそそのまちづくり」に取り組んでいければと考えています。みなさんのご意見をお待ちしています。

ご意見・お問合せは

〒785-8601

高知県須崎市山手町1-7

須崎市企画課

電話 (0889)

42-5691

FAX (0889)

42-7320

Eメール

kkaku2@city.susaki.kochi.jp